

事例紹介 質疑応答

○司会 それでは、質疑応答に移ります。質問のある方は手を挙げていただきまして、こちらから指名させていただきます。係の者がマイクをお持ちいたしますので、ご所属とご氏名をいただいた後、どの報告に対する質問か明確にさせていただいた後にご発言いただきますようご協力のほどよろしくお願いいたします。

それでは、どなたか質問ございますでしょうか。本日来ていただいた方々とはなかなかお話をすることがないと思います。ご遠慮なくご質問ください。

○堀（林野庁） 今ここで質疑をやるということは、今のプレゼンテーションそのものに関する質問という意味ですね。

○司会 そうです。今ありました3つのプロジェクトに対してです。

○堀（林野庁） 私は2番目のプレゼンテーションをされた原田さんにご意見を伺いたい。実は私はこのフォーラムの告知を見て、最初にちょっと気になったのは、テーマのところに「なぜ環境保全への意識が低いか」と書いてあります。私が思ったのは、最初の課長代理の話にもあったように、これは本当に途上国の、地元住民の意識が低いというものかな、本当にそうかなという感じの疑問を持って来ました。原田さんのお話を聞いていると、言い方はどうあれ、私なりの理解は、彼らはそれなりにちゃんとわかっている。ただ、その状況からして、どうしても今はそういうふうなことしかないんだけど、そこを何とか外から少し支援することによって、彼ら自身でどんどん改善していくような、そういうもんじゃなかなという感じを受けました。そこら辺を、特に教育ということで行かれた専門家としてどうお感じになったのか、簡単にお話願います。

○原田（地球環境戦略研究機関） 私は今おっしゃられたとおりに話をしたつもりです。今回のテーマは、基本的に環境保全への意識が低いのかという、そういう前提で始まっている。私もそういう意味ではちょっと抵抗があります。低いというのは、どういう視点から見て何を低いと言うのか。先ほども言いましたように、例えば国立公園の役人の方から見れば低いと映っている。それはなぜかということ、地域の人たちが森林の中に入っていきからという、そういう解釈になるわけです。地域の人たちから考えてみれば、国立公園は使うかもしれないけれども、ある資源の中で、例えば足りない分をむやみに中に入って採るといふばかりではなくて、周りのコミュニティーの中から多目に持っている人からもらって、あえて森林の中から採ることはしないとか、森林を使っているけれども全部を伐採するわけではなくて、一部だけの植物を採るとか、そういう地元の知恵は必ずあります。そういう意味で、それを意識が低いというふうには必ずしも言えないです。私が思うには、それをグローバルな視点から見るか、ローカルな視点から見るかの違いだ

と思います。グローバルな視点から見れば、彼らは確かに意識は低いかもしれない。だけど、それがローカルな視点から見れば、彼らは彼らなりに自分たちのコミュニティの中で意識を高めながら、それで持続的に利用している。ローカルとグローバルがつながっていないところに、やはり問題があるのではないかと思います。

○司会 ありがとうございました。

それでは、次の質問でございますでしょうか。

○加藤（東京農業大学学生） 私も2番目のインドネシア生物多様性保全の発表についての質問です。ターゲットグループとして観光客、地域住民、都市住民の3つを挙げていらっしゃいます。この地域住民や都市住民の中には、例えば大規模農園や大規模な焼き畑を行うようなプランテーションを行って、その火をもって時に国立公園を傷つけてしまうような、そういった資本的に大きなグループに対してもこういう教育を行ったのでしょうか。

○原田（地球環境戦略研究機関） この状況を簡単にお伝えします。大きなグループは、国立公園の周辺にインドネシア語でペルンペルフタニという国営林業公社があります。林業省の管轄下にあります。それは生産材を抽出している国営の木材企業です。また国立公園側と国営林業公社側でいろいろとうまいこといっていなかったりとか、そういう意味では自然保護という視点から見れば、必ずしもうまくいっていない大きなグループがある。もう1つ問題になっているのは、金を採掘する企業です。それも国立公園の境界がないということをお願いに、中に入って採掘しています。このように大きなグループが2つあります。

今回のプロジェクトでは、それらはプロジェクトの力量を非常に超えているような政治的などころで動いている集団で、それらを環境教育の対象にするということは難しいという判断をしました。今回はそこまでターゲットグループには入れてはいません。ただ、地域の人たちだけではなくて、もうちょっと大きなグループが将来的には森林資源の保全というところに非常に大きくかかわってくると思います。これは、ジャワだけではなくて、カリマンタンでもそうですし、スマトラとかのプランテーションとか伐採企業もそうなので、その辺は重要だとは思いますが、ただ、それをどう扱うかというのは非常に難しいところなので、今のところは私個人の力量を超えているので何とも言えません。

○司会 ありがとうございました。他にございますでしょうか

それでは、さらに質問がございましたら、後半部でのパネルディスカッション、またはアンケート用紙の方にご記入ください。後日、可能な限り回答させていただきます。

それでは、パネルディスカッションに移る前に20分間の休憩をとりたいと思います。プログラムから5分ほど遅れますが、2時45分まで休憩をとりたいと思います。ロビーにコーヒーを用意しておりますので、

パネルディスカッションが始まる2時45分までにお席にお戻りくださいますようお願いいたします。

(休憩)